

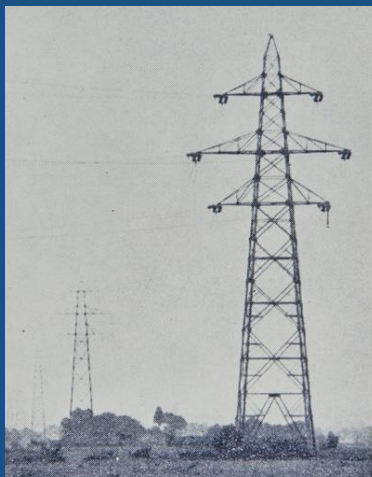
水力開発に関する送電線の整備

神通川第一発電所、牧・東町発電所、さらに上流の発電所など、神通川水系における発生電力を富山・伏木両地区に送電するため、1953年（昭和28）に当社初の154kV送電線となった伏木線、富山線（現、北笹津線・富南線）、見座線が建設され、1954年には中部連絡線、牧線、葛山線、栃尾線が完成しました。

1959年（昭和34）5月には、常願寺川有峰発電計画に伴い、154kVの有峰幹線、和田川連絡線を新設しましたが、このうち、有峰幹線の電線には当時の北陸電力としては最大の「鋼心アルミより線（ACSR）＊」410mm²を採用しました。

次いで、折立・池の尾発電所の建設に伴い、1961年（昭和36）12月に折立線を66 kVから154 kVに昇圧し、1962年（昭和37）7月には154 kV池の尾線を新設しました。池の尾は標高1,000～1,700mの山岳地帯を通過するため、がいし連結個数、電線の最大使用張力、径間長などの特別な設計条件を考慮し、工夫を凝らして建設されました。

＊ 亜鉛メッキ鋼線を中心とし、その周囲に硬アルミ線を同心円に各層交互反対により合わせたもの。軽量・高強度であることから、長距離の送電に適している。



有峰幹線



池の尾線



北陸電力
アーカイブギャラリー

Hokuriku Electric Power Company 北陸電力の歴史
ARCHIVE GALLERY